

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	保健福祉局障害福祉部障害者支援課
評価対象期間	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

1 指定概要

施設概要	名 称	北九州市立 門司障害者地域活動センター	施設類型	目的・機能		
			I	— ⑦		
	所 在 地	北九州市門司区大字畑 1 8 0 8 番地				
	設置目的	利用者の作業支援、生活支援、健康管理その他の支援を行うことにより障害者の生活及び福祉の向上に資することを目的としている。				
利用料金制		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制				
		インセンティブ制 有・ 無	ペナルティ制 有・ 無			
指定管理者	名 称	社会福祉法人あすなろ学園				
	所 在 地	北九州市小倉南区大字新道寺 1 1 0 0 - 1				
指定管理業務の内容		障害福祉サービス事業所（施設入所支援、生活介護、就労継続支援（B型））の管理運営				
指定期間		令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日				

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント		配点	評価 レベル	得点		
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		50		40		
(1) 施設の設置目的の達成		25	4	20		
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。						
② 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。						
③ 利用者のサービス提供計画に基づき、適切に福祉サービスが実施されているか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						
【利用率】 (単位：%)						
年度	【参考】R2 年度 (更新前)	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
目標値	100	100	100	100	100	100
実績	84.3	86.7	83.7	86.3	85.4	86.3
※利用率算出方法：延べ利用者数÷（定員×開所日数）						
※ ・・・評価対象年度（以下、同じ）						
①③・利用率は僅かながら増加し、高い利用率を維持している。利用者家族の多様なニーズに対応すべく、多機能型施設の特徴を最大限活用し、日中一時支援と短期入所を受け入れている。事業計画に沿った適切な管理運営が行われており、各サービスにおいて、個別支援計画等に基づき、利用者の障害特性や個別のニーズにあったサービスに努めている。						
①・施設入所支援について、重度の方も在籍しており、利用者の障害を理解した上で本人の意思を確認するとともに、利用者の特性に応じてコミュニケーションカードやジェスチャー等を用いて視覚的な支援を行うことで、利用者が混乱することなく落ち着いて過ごせるよう意思疎通の支援に取り組んでいる。						
・生活介護について、リサイクル空き缶プレス、季節に応じた作品作り等の創作活動や園芸・収穫体験などの通常活動に加え、レクリエーション活動の一環としてミニクッキングや買い物体験や、選択肢の中から行き先を選んで外出するレジャーガイドを実施するなど、センターに来所する楽しみや日中活動の充実に繋がった。						
【月平均工賃額（就労継続支援B型）】					(単位：円)	
年度	【参考】R2 年度 (更新前)	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
目標値	15,000	9,200	9,500	9,800	11,000	11,300
実績	8,219	9,498	8,000	9,600	9,410	10,549
・就労継続支援B型事業所について、白野江植物公園や門司赤煉瓦倶楽部の花壇管理の業務を委託されている。地元企業との連携による業務委託の新規開拓（外溝清掃）						

や、利用者のアイデアを活かした新商品の開発に取り組んでいる。農園芸においては、野菜や花の苗の生産への継続的な取り組み、スーパー等への販路拡大などを行い、作業の確保及び工賃確保に努めている。また、材料費等の高騰が続く中、施設で生産するオリジナル商品の改良を重ね、適切な価格設定等により目標工賃に近づけるよう努めている。

- ②・広報誌の発行（年間3回から6回へ増）やSNS（インスタグラム）への掲載を実施したほか、地域イベント等への参加を積極的に行い、センターの取り組みや活動内容（農園芸商品、門司活祭り）を地域に紹介している。
 - ・地元の大学や専門学校からの実習生15名や、特別支援学校からの見学者13名を受け入れ、大学等卒業生の地元定着の一環や特別支援学校高等部卒業後の進路の一つとして、障害福祉施設の紹介に取り組んでいる。
- ③・利用者の送迎については、各家庭に送迎の希望調査を行い、送迎時間や送迎場所への要望、短期入所先の事業所への送迎など、家庭の状況や意向に寄り添いながら利便性の向上を図っている。

（２）利用者の満足度

- | | | | |
|---|----|---|----|
| ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。 | 25 | 4 | 20 |
| ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。 | | | |
| ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。 | | | |
| ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。 | | | |
| ⑤ 利用者の生活の質の向上を目的としたボランティア等の活用が行われており、その効果があったか。 | | | |
| ⑥ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。 | | | |

【評価の理由、要因・原因分析】

施設の総合評価

【満足度】

（単位：％）

年度	【参考】R2年度 （更新前）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
実績（入所）	89.3	89.2	86.6	94.9	93.5	87.7
実績（生活介護）	78.1	86.6	85.1	80.2	78.5	87.7
実績（就労支援）	90.2	89.2	83.9	91.5	88.0	88.0

- ①・北九州市が実施したアンケートの結果、施設の各サービスの、「良い」、「まあまあ良い」を合わせた評価は、87.8％（入所者87.7％、生活介護87.7％、就労支援88.0％）であり、全体として利用者の満足度は高いものとなっている。
- ②・行事等の実施にあたっては、年間行事のニーズ調査の実施や、利用者も企画等に参加できるようにしている。
- ③・利用者からの苦情に対して適切に対応していくため、苦情解決委員会を定期的（年4回）に開催し、内容を的確に把握するとともに、第三者委員からの意見や助言を

踏まえながら苦情解決に対応している。						
④・毎月の予定表の配付等のほか、家族役員会への参加、家族懇談会の開催、通所利用者との連絡帳による各種お知らせ情報提供を実施しており、緊急時の連絡網も整備されている。						
⑤・利用者のアート活動（クラブ活動）として、2カ月に1回、染織作家による作品制作の指導を受け、絹糸を使ったデザイン制作を行ったほか、音楽ボランティアグループ「百瀬ミュージック」による音楽療法を毎月開催し、心身の安定や楽しみの広がりに取り組んでいる。						
⑥・本市主催の「NUKUMORI PLUSプロジェクトに参加し、小倉城しろテラスでのテストマーケティングで利用者が制作したイラストマグネットが選出されたり、小倉クリスマスマーケットや北九州市ホテル協会のレンタルアート企画で利用者のアート作品が選ばれる等、取材や紙面掲載されることで利用者の自信につながり、意欲の向上につながっている。						
2 効率性の向上等に関する取組み		1 5	9			
(1) 経費の低減等		1 5	3	9		
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。						
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。						
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						
【光熱水費】 (単位：千円)						
年度	【参考】R2 年度 (更新前)	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
予算	19,800	18,950	19,000	20,449	18,850	25.363
決算	22,163	20,373	22,464	20,894	21,006	20.889
①・光熱水費や日常使用する備品等の節約意識を職員間で共有するなど、積極的な経費削減に取り組んでおり、利用者の体調や安全に配慮しつつ、冷暖房や照明等の使用量の削減に努めている。						
・経費の低減目標として、「事務費・事業費 －3%削減」を目標としており、電力に関しては地元エネルギー供給会社から需給している。						
(2) 収入の増加		—	—	—		
① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						
・提供するサービスは法定であり、報酬単価も国基準であるため、収入増加の工夫の余地がない。						
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み		3 5		2 4		

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況				
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。	1 5	4	1 2	
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。				
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。				
④ モニタリングの結果、施設の維持管理が適切に行われているか。				
[評価の理由、要因・原因分析]				
①・施設内において管理運営にあたる人員は適正に配置されており、施設の維持管理は適切に行われている。				
②・「z o o m」等を利用したオンライン研修に職員が参加し、職員の資質向上を目指している。また、強度行動障害に関する専門的知識を養うため、強度行動障害支援者養成研修の積極的な受講を目指している。				
③・利用者の社会参加と就労意欲の向上を目的に、地域イベントへの参加や製品販売を通じた交流を積極的に推進した。				
・近隣の町内会や福祉施設で「福祉の郷地区町内応援協力会」を結成しており、協働して福祉の郷3町内8施設合同避難訓練を実施する等、防災面の連携が図っている。				
・地域の公共交通機関であるバス定期便の縮小や削減により買い物や通院が困難になった方を対象に、地域の市民センター等と連携して、「コミュニティバス」を運行（毎月8～10回、延べ896名利用）しており、地域貢献・交流、共生社会の実現に努めている。				
・社会的養護の子どもたちの自立に対する支援として、近隣の児童養護施設の生徒（高校生）に対し、貯蓄援助（卒園後の生活費としての貯蓄）と社会人としての姿勢を学ばせる場として、期間限定で雇用契約を結び、施設内外の清掃に従事いただいている。施設間の距離も近く「近くて安心できる就労場所」として、通勤面での安全配慮等にも対応できている。				
・門司活まつりやショッピングモールでの買い物、カラオケ外出などを実施し、日々の生活の充実や生きがいに努めている。				
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など				
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	2 0	3	1 2	
② 施設の利用者に対する人権が尊重され、また、身体拘束及び虐待等の防止策が適切に実施されているか。				
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。				
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。				
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていた				

か。			
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。			
⑦ 衛生管理及び感染症防止への対応が適切であったか。			
⑧ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			
【評価の理由、要因・原因分析】 ①②・利用者の個人情報保護、衛生管理及び事故防止等について、マニュアルを整備するとともに、職員の意識向上を図っている。 ②・人権尊重の視点に立ち施設職員倫理綱領や職員行動規範に基づいた支援を職員全体に周知徹底し、支援内容を共有している。 ・施設入所支援について、重度の方も在籍しており、利用者の障害を理解した上で本人の意思を確認するとともに、利用者の特性に応じてコミュニケーションカードやジェスチャー等を用いて視覚的な支援を行うことで、利用者が混乱することなく落ち着いて過ごせるよう意思疎通の支援に取り組んでいる。 ⑤⑥・毎月の支援会議や毎朝の引継ぎを通して等においてヒヤリハットや事故報告の共有を行うとともに、ケース検討やグループ討議による危険予知トレーニングを定期的実施することで再発防止を図っている。 ⑥・夜間想定避難訓練を年1回及び入所者においては自主避難訓練を毎月1回実施しているほか、近隣施設との合同消防訓練に参加している。 ・災害時手厚いケアが必要となるような援護者を福祉施設に優先的に受け入れる「福祉避難所」として、非常備蓄品の整備に取り組んでいる。 ⑦・感染症対策マニュアルによる施設内の感染予防、利用者の健康管理に努めるとともに、看護師と管理栄養士が連携し、利用者の体調管理や疾病予防に取り組んでいる。			

【総合評価】

合計得点	73	評価ランク	B
【評価の理由】 ・事業計画に沿って、入所施設と通所施設の適切な運営管理を行っており、利用者の障害特性やニーズに応じたきめ細かいサービス提供に努めるとともに、利用者の満足度も高く、障害福祉サービス事業所の管理運営者として高く評価できる。 ・特に、施設入所支援については、重度の方も在籍しており、利用者の障害を理解した上で本人の意思を確認するとともに、利用者の特性に応じてコミュニケーションカードやジェスチャー等を用いて視覚的な支援を行うことで、利用者が混乱することなく落ち着いて過ごせるよう意思疎通の支援に取り組んでいる点は、評価できる。 ・生活介護について、リサイクル空き缶プレス、季節に応じた作品作り等の創作活動や園芸・収穫体験に加え、ミニクッキングや買い物体験、レジャーガイドを実施するなど、センターに来所する楽しみや日中活動の充実に繋げている。 ・利用者の社会参加と就労意欲向上を目的に行ってきた制作活動では、これまでのハンドメイド製品から利用者の個性を生かした「アート雑貨」への転換を図り、地域のイベント参加や製品販売を通じた交流を積極的に推進している。 ・就労継続支援B型事業所について、白野江植物公園や門司赤煉瓦倶楽部などの地域の企			

業等から花壇管理の業務を委託されている。農園芸においては、野菜や花の苗の生産への継続的な取り組み、スーパー等への販路拡大などを行い、作業の確保及び工賃確保に努めている。

- ・ 公共バスの縮小や削減により買い物や通院等が困難になった方を対象にコミュニティバスの運行による支援を実施しているほか、社会的養護の子どもたちの自立支援として、近隣の児童養護施設の生徒（高校生）を貯蓄援助（卒園後の生活費としての貯蓄）と社会人としての姿勢を学ばせる場として、期間限定で雇用契約を結ぶなど、社会貢献に努めている。

〔北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見〕

適正に評価されている。

今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。